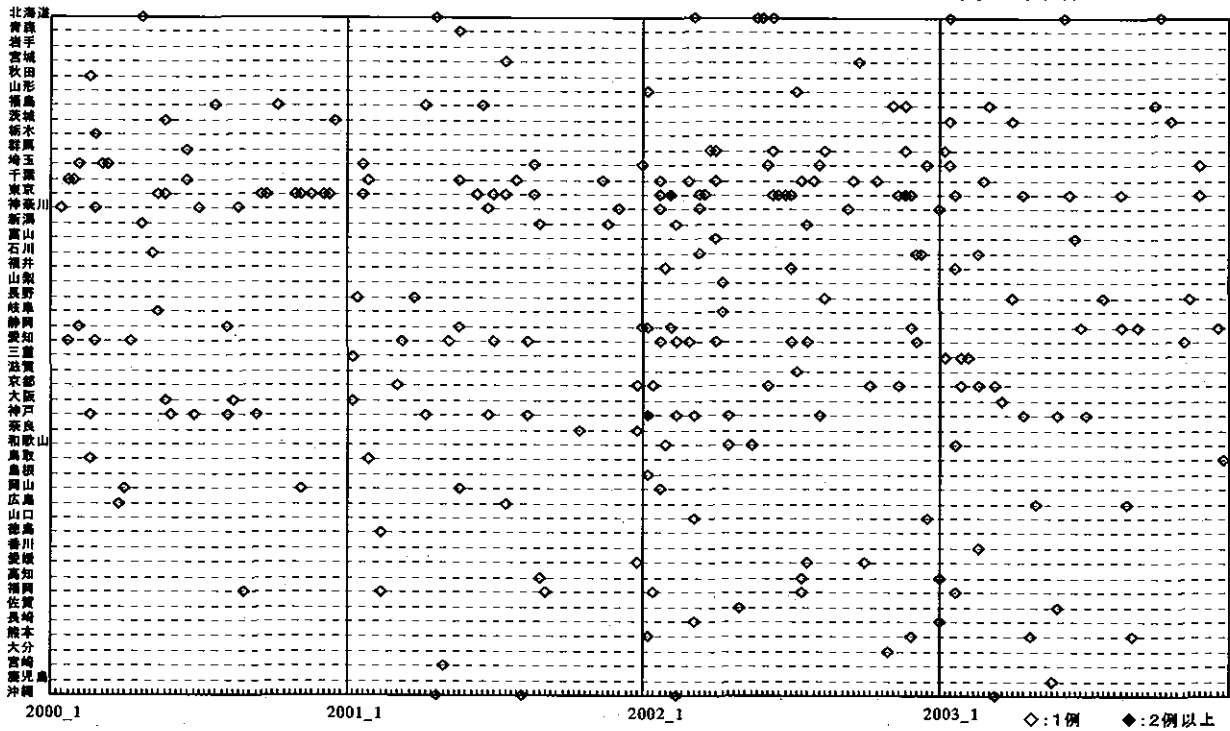
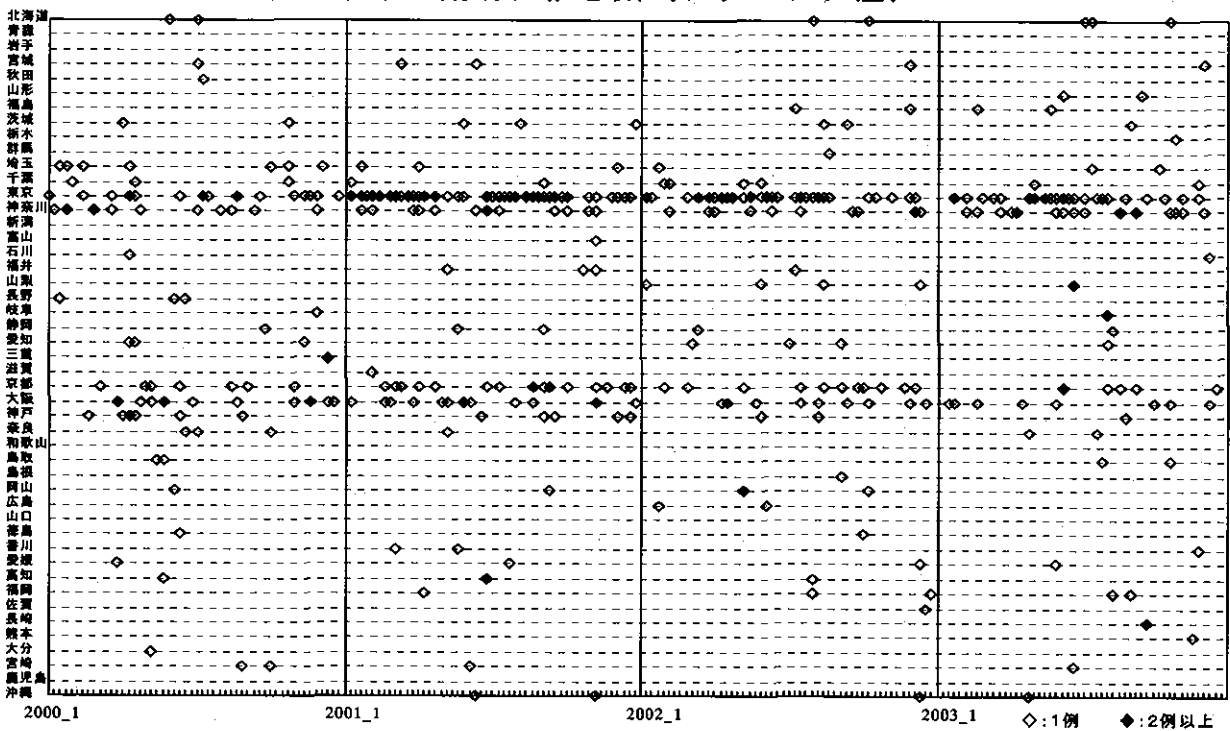


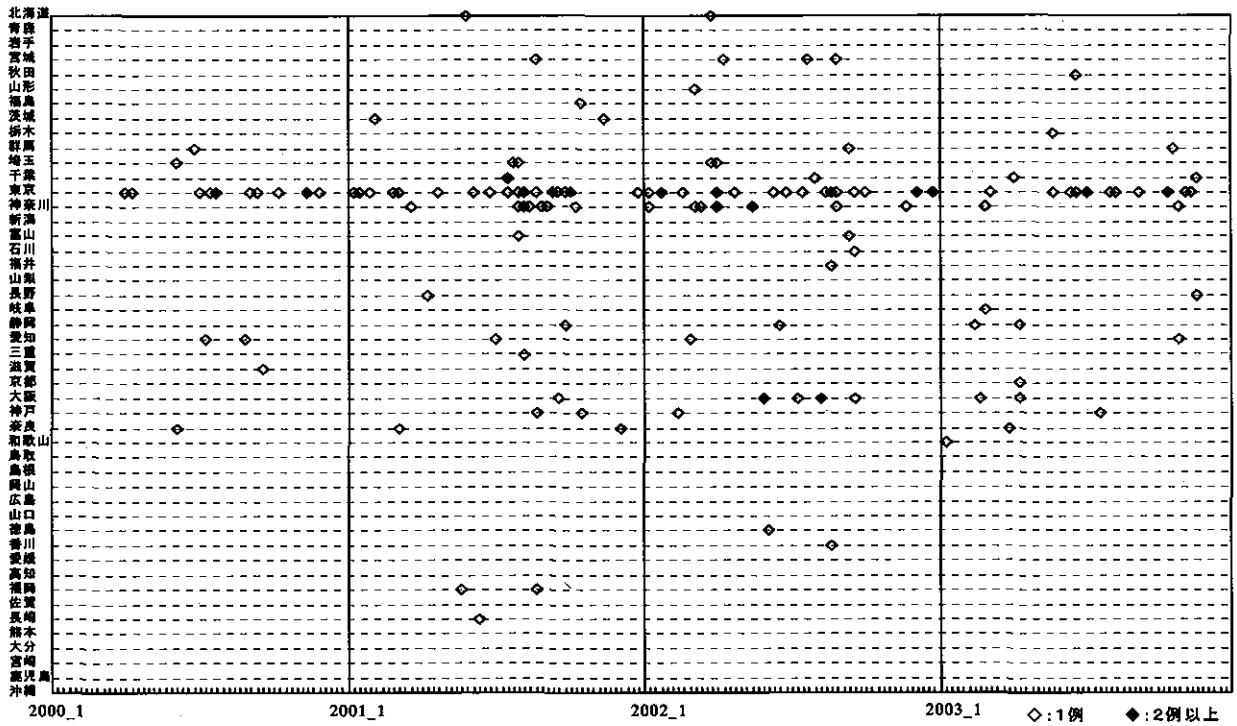
図Ⅳ-3-5. 都道府県と週別、罹患数（劇症型溶血性レンサ球菌感染症）



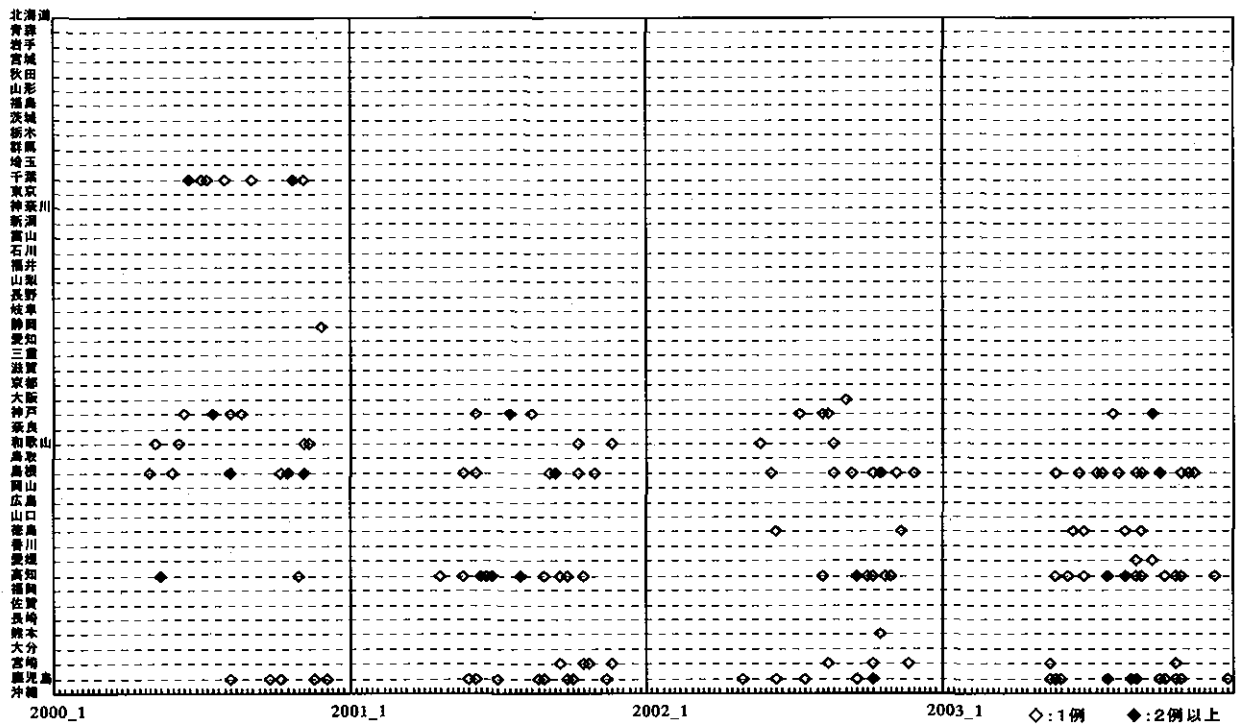
図Ⅳ-3-6. 都道府県と週別、罹患数（ジアルジア症）



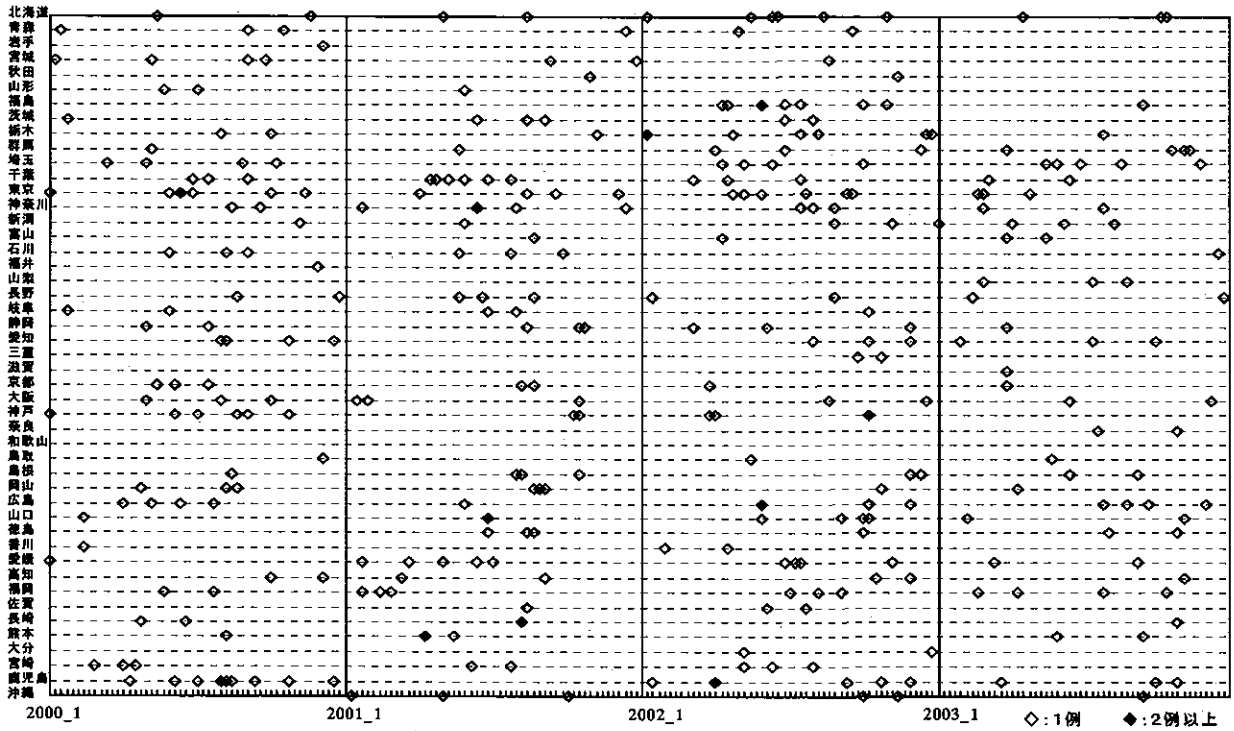
図IV-3-7. 都道府県と週別、罹患数（デング熱）



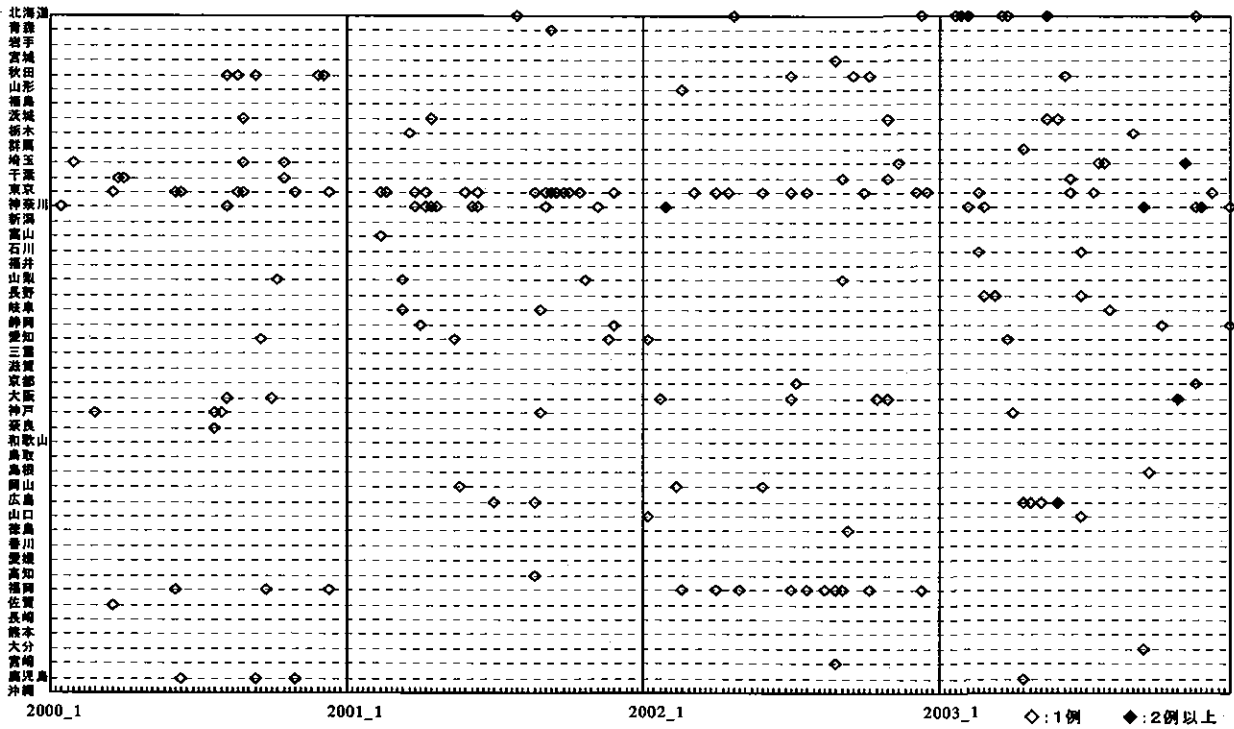
図IV-3-8. 都道府県と週別、罹患数（日本紅斑熱）



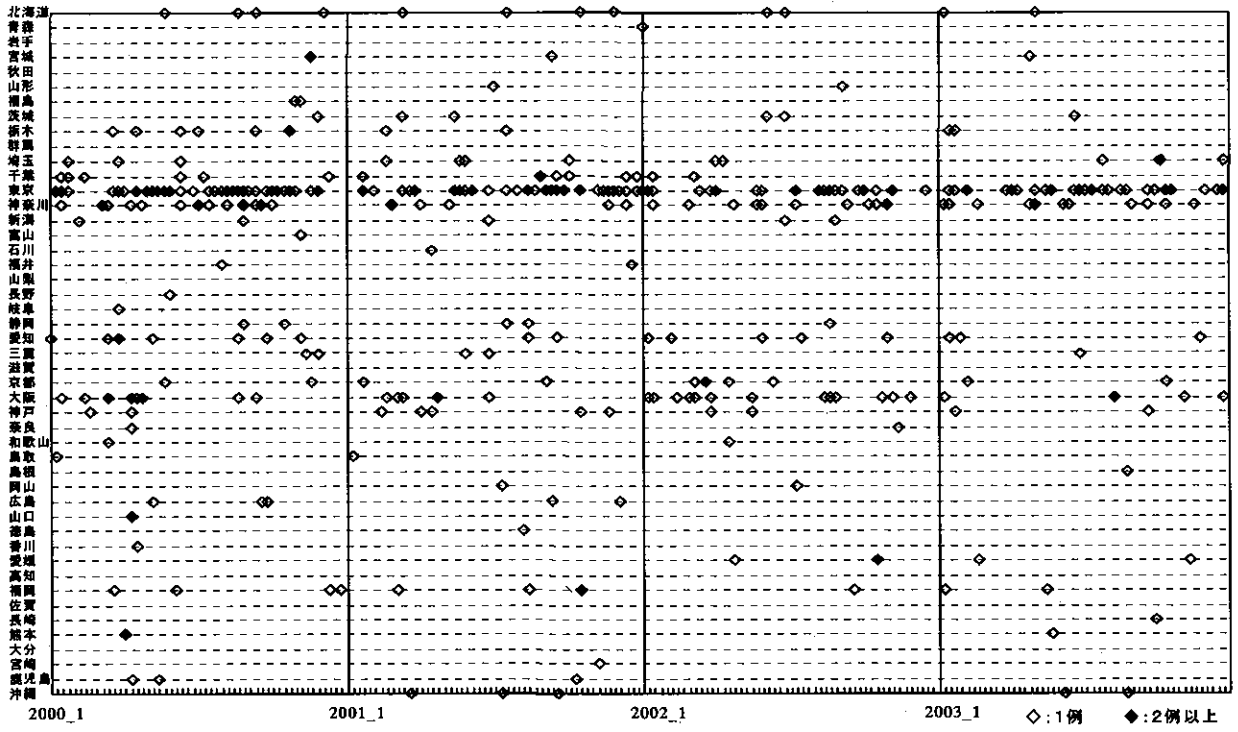
図Ⅳ-3-9. 都道府県と週別、罹患数（破傷風）



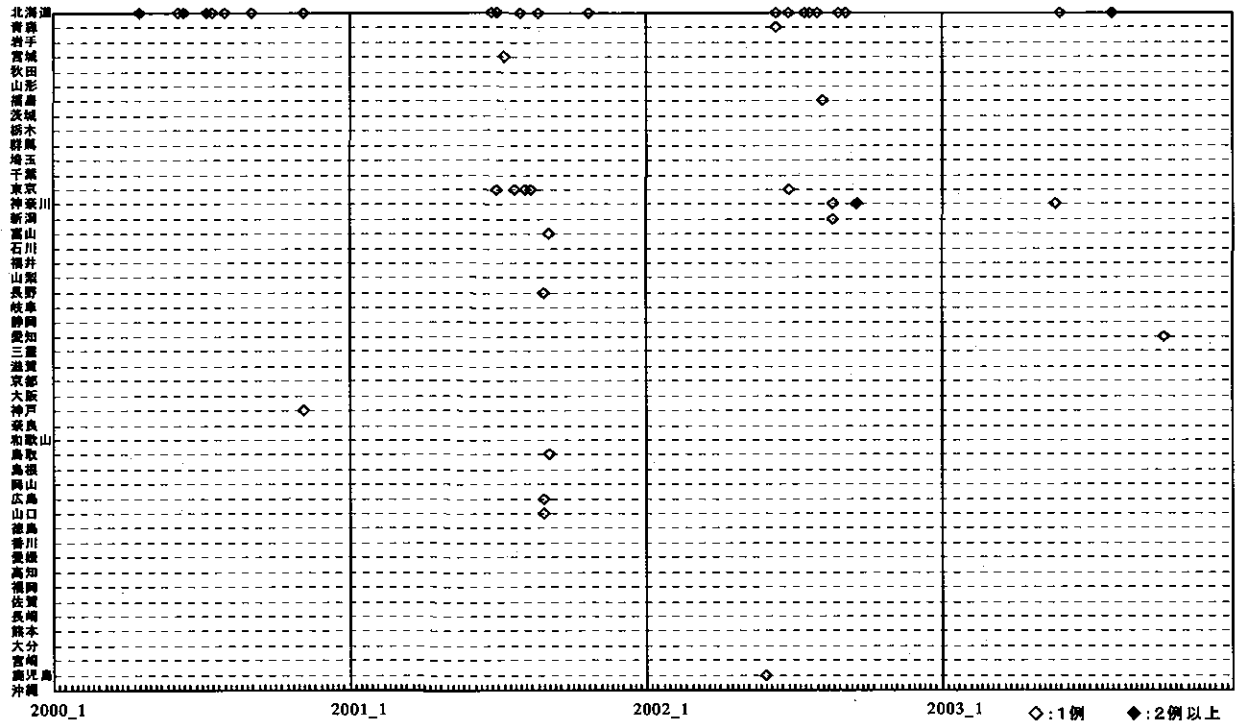
図Ⅳ-3-10. 都道府県と週別、罹患数（バンコマイシン耐性腸球菌感染症）



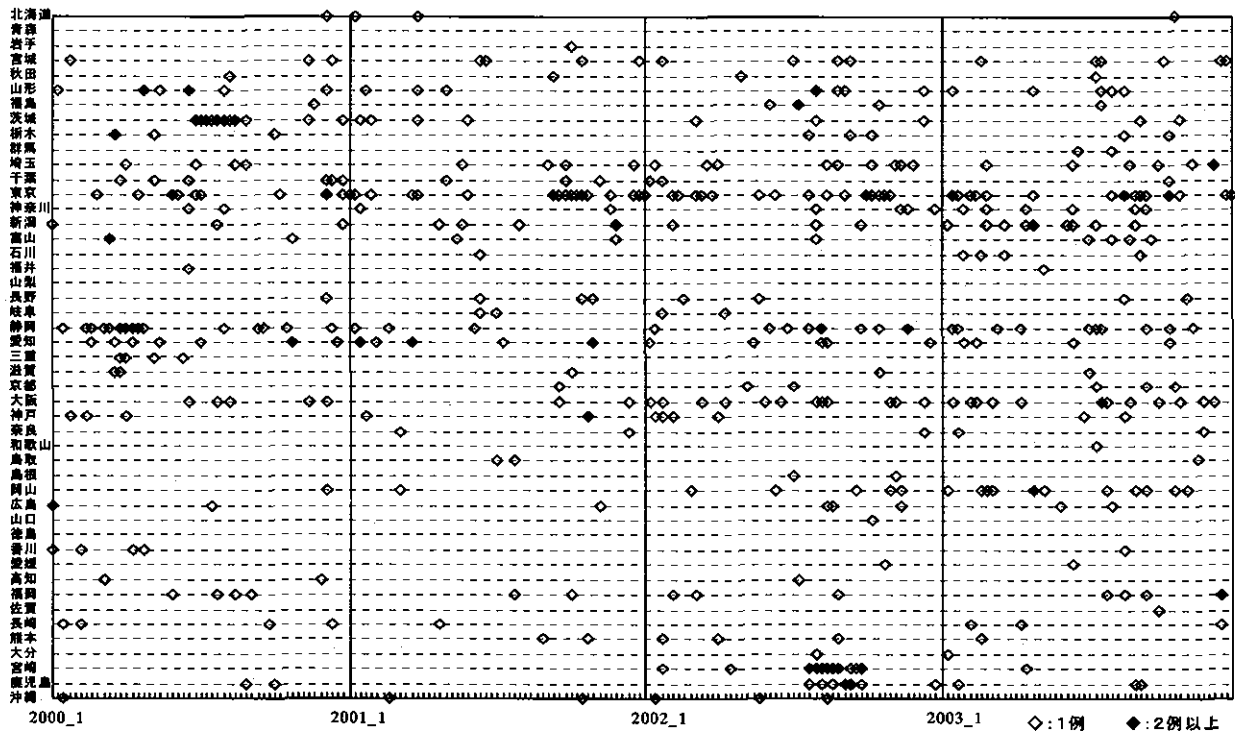
図Ⅳ-3-11. 都道府県と週別、罹患数（マラリア）



図Ⅳ-3-12. 都道府県と週別、罹患数（ライム病）



図IV-3-13. 都道府県と週別、罹患数（レジオネラ症）



#### IV-4. 罹患の感染特性分布

罹患の感染特性分布として、2000～2002年と2003年について、性、年齢、感染経路などの状況を観察する。

##### 1) 検討方法

前節と同じように、基礎資料は2000～2002年と2003年における感染症発生動向調査データとし、検討対象は4類感染症の全数把握対象疾患の中で、13疾患（表IV-2-1）とした。

感染特性として、性別、年齢、診断方法、診断時の症状、「最近数年間の主な居住地」、「推定される感染地域」、「病原体や媒介動物等との接触又は生息場所での活動」、「推定される感染源・感染経路」、「同疾患又は同様の症状の者の発症例」の9項目とした。なお、回答方法が自由記載の項目は今回の検討には含めなかった。疾患ごとに、2000～2003年の4年間の報告について、感染特性の各項目の分布を観察した。

##### 2) 検討結果

表IV-4-1に性別の罹患数を示す。13疾患の中で、男の割合が70%以上は3疾患であった。すなわち、ジアルジア症（75.6%）、マラリア（75.9%）、レジオネラ症（84.5%）であった。男の割合が30%未満の疾患はなかった。

表IV-4-2に年齢別の罹患数を示す。0～19歳の割合が50%以上はクリプトスポリジウム症（74.0%）の1疾患であった。20～39歳の割合が50%以上はデング熱（69.5%）とマラリア（71.6%）の2疾患であった。40～59歳の割合が50%以上はなかった。60歳以上の割合が50%以上はエキノコックス症（57.8%）、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（52.1%）、日本紅斑熱（72.1%）、破傷風（69.7%）、バンコマイシン耐性腸球菌感染症（71.7%）とレジオネラ症（61.6%）の6疾患であった。

表IV-4-3に診断方法別の罹患数を示す。病原検査ありの割合が70%以上はクリプトスポリジウム症（99.2%）、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（96.2%）、ジアルジア症（98.0%）、バンコマイシン耐性腸球菌感染症（97.8%）とマラリア（95.3%）の5疾患であった。血清学的検査ありの割合が70%以上はエキノコックス症（76.6%）、オウム病（97.4%）、Q熱（82.0%）、デング熱（88.1%）、日本紅斑熱（92.1%）の5疾患であった。臨床決定ありの割合が70%以上は破傷風（99.1%）の1疾患であった。「その他」ありの割合が30%以上の疾患はなかった。

表IV-4-4に診断時の症状別の罹患数を示す。診断時の症状ありの割合が80%未満はエキノコックス症（32.8%）、ジアルジア症（51.5%）、バンコマイシン耐性腸球菌感染症（71.7%）の3疾患であった。

表IV-4-5に「最近数年間の主な居住地」別の罹患数を示す。「最近数年間の主な居住地」について、「日本国内」の割合が90%以上は10疾患であった。「その他」の割合が5%以上は、ジアルジア症（15.9%）、デング熱（16.6%）とマラリア（31.7%）の3疾患であった。「不明」の割合が5%以上はなかった。

表IV-4-6に「推定される感染地域」別の罹患数を示す。「推定される感染地域」について、「日本国内」の割合が90%以上は8疾患であった。「その他」の割合が5%以上はエキノコックス症（6.3%）、クリプトスポリジウム症（7.6%）、ジアルジア症（38.0%）、デング熱（100%）、マラリア（98.3%

%)とライム病(12.8%)の6疾患であった。「不明」の割合が5%以上はジアルジア症(18.6%)、バンコマイシン耐性腸球菌感染症(11.1%)の2疾患であった。

表Ⅳ-4-7に「病原体や媒介動物等との接触又は生息場所での活動」別の罹患数を示す。「病原体や媒介動物等との接触又は生息場所での活動」ありの割合が70%以上はエキノкокクス症(71.9%)、オウム病(90.7%)、Q熱(73.0%)、デング熱(96.0%)、日本紅斑熱(92.1%)、マラリア(95.0%)とライム病(97.9%)の7疾患であった。

表Ⅳ-4-8~9に、「推定される感染源・感染経路」別の罹患数を示す。「推定される感染源・感染経路」について、「経口感染」ありの割合が5%以上はエキノкокクス症(62.5%)、クリプトスポリジウム症(61.8%)とジアルジア症(58.2%)の3疾患であった。「性行為感染」、「静注薬物乱用」、「母子感染」はなかった。「媒介動物等」ありが5%以上はエキノкокクス症(18.8%)、オウム病(90.7%)、Q熱(43.4%)、デング熱(97.4%)、日本紅斑熱(89.1%)、マラリア(94.6%)とライム病(97.9%)の7疾患であった。「その他」ありが5%以上はクリプトスポリジウム症(7.6%)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(23.9%)、破傷風(74.3%)、バンコマイシン耐性腸球菌感染症(19.4%)とレジオネラ症(59.3%)の5疾患であった。「不明」ありが5%以上は10疾患であり、とくに、50%以上はQ熱(51.6%)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(76.1%)とバンコマイシン耐性腸球菌感染症(80.6%)の3疾患であった。

表Ⅳ-4-10に「同疾患又は同様の症状の者の発症例」別の罹患数を示す。「同疾患又は同様の症状の者の発症例」について、「同居者」にありの割合が5%以上はオウム病(22.5%)、Q熱(6.6%)、デング熱(6.6%)と日本紅斑熱(7.9%)の4疾患であった。「同じ職場や学校等」にありの割合が5%以上はオウム病(6.6%)とクリプトスポリジウム症(31.3%)の2疾患であった。「その他」にありの割合が5%以上はオウム病(7.9%)、ジアルジア症(14.1%)、デング熱(8.6%)、日本紅斑熱(9.1%)、バンコマイシン耐性腸球菌感染症(11.1%)、マラリア(9.2%)、ライム病(6.4%)とレジオネラ症(19.6%)の8疾患であった。

以上、各疾患について感染特性別分布を観察した。性別、年齢、「推定される感染地域」、「推定される感染源・感染経路」などの分布には疾患により大きな特徴が見られた。

表IV-4-1. 性別、罹患数

疾病名	性別				計 人
	男		女		
	人	%	人	%	
エキノコックス症	27	42.2	37	57.8	64
オウム病	67	44.4	84	55.6	151
Q熱	44	36.1	78	63.9	122
クリプトスポリジウム症	87	66.4	44	33.6	131
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	139	58.4	99	41.6	238
ジアルジア症	338	75.6	109	24.4	447
デング熱	95	62.9	56	37.1	151
日本紅斑熱	77	46.7	88	53.3	165
破傷風	205	59.2	141	40.8	346
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	103	57.2	77	42.8	180
マラリア	321	75.9	102	24.1	423
ライム病	29	61.7	18	38.3	47
レジオネラ症	465	84.5	85	15.5	550

表IV-4-2. 年齢別、罹患数

疾病名	年齢								計 人
	0~19歳		20~39歳		40~59歳		60歳以上		
	人	%	人	%	人	%	人	%	
エキノコックス症	2	3.1	9	14.1	16	25.0	37	57.8	64
オウム病	7	4.6	32	21.2	58	38.4	54	35.8	151
Q熱	32	26.2	46	37.7	23	18.9	21	17.2	122
クリプトスポリジウム症	97	74.0	30	22.9	3	2.3	1	0.8	131
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	10	4.2	36	15.1	68	28.6	124	52.1	238
ジアルジア症	13	2.9	202	45.2	164	36.7	68	15.2	447
デング熱	10	6.6	105	69.5	33	21.9	3	2.0	151
日本紅斑熱	8	4.8	6	3.6	32	19.4	119	72.1	165
破傷風	2	0.6	23	6.6	80	23.1	241	69.7	346
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	12	6.7	11	6.1	28	15.6	129	71.7	180
マラリア	23	5.4	303	71.6	75	17.7	22	5.2	423
ライム病	5	10.6	10	21.3	14	29.8	18	38.3	47
レジオネラ症	13	2.4	18	3.3	180	32.7	339	61.6	550



表IV-4-3. 診断方法別、罹患数

疾病名	診断方法							
	病原検査		血清学的検査		臨床決定		その他	
	人	%	人	%	人	%	人	%
エキノコックス症	19	29.7	49	76.6	16	25.0	19	29.7
オウム病	3	2.0	147	97.4	40	26.5	10	6.6
Q熱	55	45.1	100	82.0	39	32.0	3	2.5
クリプトスポリジウム症	130	99.2	0	0.0	2	1.5	2	1.5
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	229	96.2	21	8.8	83	34.9	11	4.6
ジアルジア症	438	98.0	2	0.4	12	2.7	14	3.1
デング熱	33	21.9	133	88.1	29	19.2	6	4.0
日本紅斑熱	3	1.8	152	92.1	58	35.2	4	2.4
破傷風	18	5.2	4	1.2	343	99.1	10	2.9
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	176	97.8	8	4.4	1	0.6	15	8.3
マラリア	403	95.3	31	7.3	39	9.2	23	5.4
ライム病	7	14.9	32	68.1	27	57.4	4	8.5
レジオネラ症	364	66.2	162	29.5	74	13.5	92	16.7

表IV-4-4. 診断時の症状、罹患数

疾病名	診断時の症状				計
	あり		なし		
	人	%	人	%	人
エキノコックス症	21	32.8	43	67.2	64
オウム病	133	88.1	18	11.9	151
Q熱	112	91.8	10	8.2	122
クリプトスポリジウム症	128	97.7	3	2.3	131
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	236	99.2	2	0.8	238
ジアルジア症	230	51.5	217	48.5	447
デング熱	141	93.4	10	6.6	151
日本紅斑熱	149	90.3	16	9.7	165
破傷風	345	99.7	1	0.3	346
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	129	71.7	51	28.3	180
マラリア	415	98.1	8	1.9	423
ライム病	44	93.6	3	6.4	47
レジオネラ症	515	93.6	35	6.4	550

表Ⅳ-4-5. 最近数年間の主な居住地別、罹患数

疾病名	最近数年間の主な居住地						全体 人
	日本国内		その他		不明		
	人	%	人	%	人	%	
エキノкокクス症	63	98.4	1	1.6	0	0.0	64
オウム病	151	100.0	0	0.0	0	0.0	151
Q熱	121	99.2	1	0.8	0	0.0	122
クリプトスポリジウム症	130	99.2	1	0.8	0	0.0	131
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	232	97.5	1	0.4	5	2.1	238
ジアルジア症	355	79.4	71	15.9	21	4.7	447
デング熱	125	82.8	25	16.6	1	0.7	151
日本紅斑熱	165	100.0	0	0.0	0	0.0	165
破傷風	345	99.7	0	0.0	1	0.3	346
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	175	97.2	3	1.7	2	1.1	180
マラリア	286	67.6	134	31.7	3	0.7	423
ライム病	45	95.7	2	4.3	0	0.0	47
レジオネラ症	548	99.6	0	0.0	2	0.4	550

表Ⅳ-4-6. 推定される感染地域別、罹患数

疾病名	推定される感染地域						全体 人
	日本国内		その他		不明		
	人	%	人	%	人	%	
エキノкокクス症	59	92.2	4	6.3	1	1.6	64
オウム病	149	98.7	1	0.7	1	0.7	151
Q熱	114	93.4	6	4.9	2	1.6	122
クリプトスポリジウム症	121	92.4	10	7.6	0	0.0	131
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	230	96.6	1	0.4	7	2.9	238
ジアルジア症	194	43.4	170	38.0	83	18.6	447
デング熱	0	0.0	151	100.0	0	0.0	151
日本紅斑熱	165	100.0	0	0.0	0	0.0	165
破傷風	340	98.3	3	0.9	3	0.9	346
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	155	86.1	5	2.8	20	11.1	180
マラリア	0	0.0	416	98.3	7	1.7	423
ライム病	41	87.2	6	12.8	0	0.0	47
レジオネラ症	530	96.4	8	1.5	12	2.2	550

表IV-4-7. 病原体や媒介動物等との接触又は生息場所での活動別、罹患数

疾病名	病原体や媒介動物等との 接触又は生息場所での活 動				全体 人
	あり		なし		
	人	%	人	%	
エキノкокクス症	46	71.9	18	28.1	64
オウム病	137	90.7	14	9.3	151
Q熱	89	73.0	33	27.0	122
クリプトスポリジウム症	13	9.9	118	90.1	131
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	20	8.4	218	91.6	238
ジアルジア症	70	15.7	377	84.3	447
デング熱	145	96.0	6	4.0	151
日本紅斑熱	152	92.1	13	7.9	165
破傷風	169	48.8	177	51.2	346
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	14	7.8	166	92.2	180
マラリア	402	95.0	21	5.0	423
ライム病	46	97.9	1	2.1	47
レジオネラ症	221	40.2	329	59.8	550

表IV-4-8. 推定される感染源・感染経路等別、罹患数(1)

疾病名	推定される感染源・感染経路等								全体 人
	経口感染		性行為感染		静注薬物乱用		母子感染		
	人	%	人	%	人	%	人	%	
エキノкокクス症	40	62.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	64
オウム病	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	151
Q熱	2	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	122
クリプトスポリジウム症	81	61.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	131
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	238
ジアルジア症	260	58.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	447
デング熱	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	151
日本紅斑熱	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	165
破傷風	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	346
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	180
マラリア	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	423
ライム病	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	47
レジオネラ症	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	550

表IV-4-9. 推定される感染源・感染経路等別、罹患数(2)

疾病名	推定される感染源・感染経路等						全体 人
	媒介動物等		その他		不明		
	人	%	人	%	人	%	
エキノコックス症	12	18.8	0	0.0	17	26.6	64
オウム病	137	90.7	2	1.3	13	8.6	151
Q熱	53	43.4	5	4.1	63	51.6	122
クリプトスポリジウム症	1	0.8	10	7.6	40	30.5	131
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0.0	57	23.9	181	76.1	238
ジアルジア症	2	0.4	21	4.7	168	37.6	447
デング熱	147	97.4	3	2.0	2	1.3	151
日本紅斑熱	147	89.1	6	3.6	13	7.9	165
破傷風	0	0.0	257	74.3	89	25.7	346
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0.0	35	19.4	145	80.6	180
マラリア	400	94.6	4	0.9	19	4.5	423
ライム病	46	97.9	1	2.1	0	0.0	47
レジオネラ症	0	0.0	326	59.3	224	40.7	550

表IV-4-10. 同疾患又は同様の症状の者の発症別、罹患数

疾病名	同疾患又は同様の症状の者の発症								全体 人
	同居者		同じ職場や 学校等		その他		いない		
	人	%	人	%	人	%	人	%	
エキノコックス症	0	0.0	0	0.0	2	3.1	62	96.9	64
オウム病	34	22.5	10	6.6	12	7.9	95	62.9	151
Q熱	8	6.6	1	0.8	5	4.1	108	88.5	122
クリプトスポリジウム症	0	0.0	41	31.3	4	3.1	86	65.6	131
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0.0	1	0.4	9	3.8	228	95.8	238
ジアルジア症	19	4.3	9	2.0	63	14.1	356	79.6	447
デング熱	10	6.6	4	2.6	13	8.6	124	82.1	151
日本紅斑熱	13	7.9	0	0.0	15	9.1	137	83.0	165
破傷風	1	0.3	0	0.0	3	0.9	342	98.8	346
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0.0	0	0.0	20	11.1	160	88.9	180
マラリア	7	1.7	11	2.6	39	9.2	366	86.5	423
ライム病	0	0.0	1	2.1	3	6.4	43	91.5	47
レジオネラ症	8	1.5	1	0.2	108	19.6	433	78.7	550

#### IV-5. 今後の課題

感染症発生動向調査において、情報の有効活用には多種多様な目的と方法があり得る。具体的な目的と方法として、1つ1つの事例を積み重ねていくことによって、全体として、情報の有効活用が進展していくと思われる。また、そういう事例がある程度集まり、比較検討を加えることによって、情報の有効活用の体系化につながっていくと考えられる。

ここでは、4・5類感染症の全数把握対象疾患の中で、罹患率がある程度の高さの13疾患を検討対象として、流行の把握という面から、情報の有効活用に向けた基礎的検討を加えた。

第1の検討として、2000～2002年の3年間の報告状況から、流行がない場合の罹患率の推定を試みた。流行がない場合の罹患率を比較の基準とすることによって、罹患状況の観察から、よい鋭敏・正確に、流行の有無や大きさが把握可能となる。ここでの流行がない場合の罹患率については、その値の適切性などには議論の余地が小さくないものの、1つの算定方法を提案したものである。

第2の検討として、2000～2002年に2003年を加えた4年間において、罹患の時間的分布、地域的分布と感染特性分布を観察した。第1の検討から得た、流行がない場合の罹患率を比較の基準とすることによって、罹患の時間的・地域的分布がある程度把握できたと考えられる。とくに、流行がない場合の罹患率が人口100万対で年間0.1～1.0程度であれば、偶然によって、都道府県・週に2例以上の罹患が生ずることはごく稀であるから、図IV-3-1～13のような観察方法もある程度有効と考えられる。また、罹患の感染特性分布として、性別、年齢、「推定される感染地域」、「推定される感染源・感染経路」などでは疾患により大きな特徴が見られた。これにより、各疾患のおおよその流行の特性を把握できたものと思われる。

以上の検討結果に基づいて、当面の課題として、まず、情報の有効活用の具体化を進めることが重要と考えられる。

## V. 情報の有効活用に関する検討－基幹定点対象疾患－

感染症発生動向調査の基幹定点対象疾患は、感染症法の定点把握対象の五類感染症の8疾患（細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎（オウム病を除く）、成人麻疹、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症）である。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎（オウム病を除く）、成人麻疹は、患者情報が1週間（月曜日から日曜日まで）を調査単位とする週報対象疾患であり、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症（以下 MRSA 感染症）、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症（以下 PRSP 感染症）、薬剤耐性緑膿菌感染症は、患者情報が各月（月の1日から末日まで）を調査単位とする月報対象疾患である。

基幹（患者）定点の選定基準は「対象患者がほとんど入院患者であるため、患者を300人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を各二次医療圏域毎に1か所以上、基幹定点として指定すること」と定められている。

基幹定点対象疾患の情報の有効活用については、これまで十分な検討がなされていないが、感染症（ここでは基幹定点対象疾患）の予防を一層進める上で、情報のより有効な活用について検討することは大切であろう。今年度は、基幹定点対象疾患の情報の有効活用を検討していくための基礎的検討として、基幹定点対象疾患の情報の内容を確認し、2001~2003年の感染症発生動向調査データを元に基幹定点数、各疾患の報告状況（時間的分布、地域的分布、性別分布、年齢分布、その他）を集計した。最後に、今回検討した基幹定点対象疾患の情報の有効活用についてまとめを記した。なお、急性脳炎は2003年11月の感染症法の法改正で基幹定点対象疾患から全数把握対象疾患に変更されたが、2001~2003年当時は基幹定点（週報）対象疾患であったため、今回は急性脳炎も入れて検討した。

### V-1. 基幹定点対象疾患の情報の内容

#### 1)方法

感染症発生動向調査の五類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票と、「感染症発生動向調査システム」操作マニュアルによる項目及び分類コード一覧を元に必要部分を抜粋した。

#### 2)結果

表V-1-1に基幹定点対象疾患の報告項目および分類コード（週報）、表V-1-2に基幹定点対象疾患の報告項目および分類コード（月報）を示した。報告項目のうち、調査対象時期（西暦年月）、保健所コード、定点コード、ID番号、性、年・月齢、病名（○を付ける）、採取年月日は週報対象疾患・月報対象疾患ともに、共通の報告項目である。週報対象疾患ではさらに検査方法と検査結果、月報対象疾患では採取部位の報告項目がある。

#### 3)情報の内容のまとめ

感染症発生動向調査の基幹定点対象疾患に関する情報源である五類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票には、他の患者定点報告票にはない種々の報告項目がある。調査対象時期、保健所コー

ド、定点コードは全ての患者定点報告票に共通する報告項目である。小児科患者定点報告票、インフルエンザ患者定点報告票、眼科患者定点報告票では前記の報告項目以外は、疾患毎の性別と5～10歳階級の年齢（ただし10歳未満は各歳、1歳未満は6か月未満と6か月以上に分類）のみが定められている。それに対し基幹患者定点報告票には、報告例毎に正確な年齢（年・月齢）、採取年月日、検査方法、検査結果、採取部位などの詳細な患者情報が盛り込まれている。報告時期とともに採取時期の情報を得ることで、診断が確定するまでに検査などで時間を要した症例でも、疾患の発生時期が正確に把握することが可能となる。これらの詳細な情報を得ることで、より詳細で正確に疾患の発生状況の把握が可能となり、基幹患者定点報告票には予防対策を実施する上で有用な情報が多く存在していることが確認された。

表V-1-1 基幹定点対象疾患の報告項目および分類コード（週報）

報告項目	桁数	コードとその内容
西暦年月	6	西暦4桁+週2桁
保健所コード	7	保健所コード
都道府県コード	2	
中継市コード	3	
保健所コード	2	
定点コード	3	001～999
ID番号	3	001～999
性	1	1：男、2：女
年・月齢	4	年齢2桁+月齢（00～11）
病名（1～6に○を付ける）	3	疾病コード
1：急性脳炎（日本脳炎を除く）		901：急性脳炎（日本脳炎を除く）
2：細菌性髄膜炎（真菌性を含む）		902：細菌性髄膜炎（真菌性を含む）
3：無菌性髄膜炎		903：無菌性髄膜炎
4：マイコプラズマ肺炎		904：マイコプラズマ肺炎
5：クラミジア肺炎（オウム病を除く）		905：クラミジア肺炎（オウム病を除く）
6：成人麻疹		906：成人麻疹
採取年月日	8	YYYYMMDD形式
検査方法（1～6に○を付ける）	1	
1. 分離培養		1：分離培養
2. 抗原検出		2：抗原検出
3. 核酸・PCR		3：核酸・PCR
4. 塗末検鏡		4：塗末検鏡
5. 電顕		5：電顕
6. 血清		6：血清
検査結果（病原体名称）	5	0～99999（検査結果コード表あり）

表V-1-2 基幹定点対象疾患の報告項目および分類コード（月報）

報告項目	桁数	コードとその内容
西暦年月	6	西暦4桁+月2桁
保健所コード	7	保健所コード
都道府県コード	2	
中継市コード	3	
保健所コード	2	
定点コード	3	001~999
ID番号	3	001~999
性	1	1:男、2:女
年・月齢	4	年齢2桁+月齢(00~11)
病名(1~3に○をつける)	3	疾病コード
1:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		951:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
2:ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		952:ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
3:薬剤耐性緑膿菌感染症		953:薬剤耐性緑膿菌感染症
採取年月日	8	YYYYMMDD形式
採取部位	2	<951:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症> 01:喀痰(肺炎) 02:気管洗浄液 03:血液 04:髄液 05:胸水 06:腹水 07:術創部(創部感染) 08:留置カテーテル(血管・気管・尿路・体腔内・その他) 09:その他  <952:ペニシリン耐性肺炎球菌感染症> 01:喀痰(肺炎) 02:気管洗浄液 03:血液 04:髄液 05:胸水 06:腹水 07:術創部(創部感染) 08:耳漏液 09:その他  <953:薬剤耐性緑膿菌感染症> 01:喀痰(肺炎) 02:気管洗浄液 03:血液 04:髄液 05:胸水 06:腹水 07:術創部(創部感染) 08:留置カテーテル(血管・気管・尿路・体腔内・その他) 09:膿(開放創・非開放創)・分泌液 10:その他



## V-2. 基幹定点数

基幹定点の選定基準としては、患者を300人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を各二次医療圏毎に1か所以上指定することと、定められている。各都道府県が把握している基幹定点（医療機関名）は、登録基幹定点として、毎年都道府県から国立感染症研究所に送られて国として把握されているが、実情とは異なっている可能性がある。一方、保健所に報告のあった基幹定点数を考えると、対象週（月）に対象疾患の患者が0人の場合も定点医療機関は保健所に0人と報告すべきであるが報告してこない定点も存在する現状があり、報告のあった基幹定点数は実際に存在する基幹定点数より少ないことが予想される。現在、感染症週報（IDWR）として公開・提供されている定点数は基幹定点も含め全て報告のあった定点数であり、定点あたりの報告数は報告のあった定点数で割り算している（ただし、感染症研究所での算出方法は今回の集計方法とは若干異なることを明記しておく）。まず、基幹定点数がどの位存在するのか明らかにすることを目的に検討した。

### 1) 検討方法

検討資料は2001~2003年の3年間における感染症発生動向調査データである。以下の方法で、①登録基幹定点数、②平均（週別報告）基幹定点数、③平均（月別報告）基幹定点数の3つを求め検討した。

- ①登録基幹定点数：感染症発生動向調査の年報データの都道府県別定点医療機関名から、登録されている基幹定点数を算出。
- ②平均（週別報告）基幹定点数：感染症発生動向調査の保健所別データの週別基幹定点数（週別に報告のあった基幹定点数）を、各年第1週～第52週まで足し算して、その総計を52週で割って、週別報告のあった基幹定点数の平均を算出。
- ③平均（月別報告）基幹定点数：感染症発生動向調査の保健所別データの月別基幹定点数（月別に報告のあった基幹定点数）を、各年1月～12月まで足し算して、その総数を12月で割って、月別報告のあった基幹定点数の平均を算出。

### 2) 検討結果

表V-2-1に上記3つの方法で算出した都道府県別基幹定点数を、表V-2-2に都道府県別二次医療圏あたり基幹定点数、基幹定点あたり人口を示した。なお、各年の二次医療圏数は3月31日現在の数、都道府県別人口は10月1日現在の人口である。

表V-2-1で全国基幹定点数をみると、登録基幹定点数-平均（週別報告）基幹定点数-平均（月別報告）基幹定点数は、2001年が476-466.3-451.0、2002年が477-471.3-462.7、2003年が479-464.4-466.8であった。3つの方法で算出した全国基幹定点数は完全に一致はしていなかったが、大きな違いはなかった。2001~2003年で登録基幹定点数はほとんど変わらず、3つの基幹定点数の中では登録基幹定点数が最も大きな数だった。一方、都道府県別に基幹定点数をみると、3つの基幹定点数がほぼ完全に一致している都道府県は各年とも20~21あった。登録基幹定点数と平均（週別・月別報告）基幹定点数の開き（差）が大きい都道府県は東京、大阪などであるが、年を追う毎に開き（差）が小さくなっていた。

表V-2-2で二次医療圏あたり基幹定点数をみると、全国値は2001~2003年で変化なく、1.3であった。都道府県別にみると、各年ほとんどの都道府県で二次医療圏あたり基幹定点数は1代であ

った。2以上の都道府県は岩手、宮城、山形、三重、奈良、広島、高知の7県だけであり、最も多かったのは広島県で3.0であった。都道府県別の人口と基幹定点数をみると、各年で大きな変化はなく、基幹定点あたり人口が50万人を越える大きい県（埼玉、神奈川、千葉、大阪、愛知）と、基幹定点あたり人口が10万人未満と小さい県（岩手、山梨、和歌山、島根）がみられ、都道府県間で違いが大きかった。

### 3)基幹定点数のまとめ

2001~2003年の全国基幹定点数は、登録基幹定点数が476~479、平均（週別報告）基幹定点数が464.4~471.3、平均（月別報告）基幹定点数が451.0~466.8であった。全国基幹定点数は、国・都道府県が把握している数と、（週別・月別に）報告のあった基幹定点数の平均とで完全に一致はしていないものの、大きな違いはなかった。基幹定点対象疾患の全国レベルの発生動向を見ると、基準とする基幹定点数としていずれを用いても、大差はないものと思われる。ただし、対象疾患がなかった場合にも、基幹定点医療機関から保健所への報告（対象疾患がなくても0人として報告させる）をさらに徹底させることは必要であると思われた。

2001～2003年の二次医療圏あたり基幹定点数をみると、複数か所指定している都道府県はわずかしかないものの、全ての都道府県で1か所以上は指定していることが明らかになり、現行の選定基準が守られていることが確認された。人口が各都道府県で異なるため、二次医療圏の規模にばらつきがあり、地域格差をみることに限界はあるものの、2001~2003年にかけて都道府県別の登録基幹定点数は殆ど変化しておらず、都道府県毎の報告状況の時間的変化などを観察する際、定点あたり報告数でみることは有用であると思われた。

基幹定点医療機関が患者を300人以上収容する大きな病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）に限られていることは、対象とする疾患が多くは重症化し入院を要する疾患の場合、効率よく正確に疾患の発生を把握できる利点がある。また、個人医院では不可能な種々の検査が施行可能なため、検査なしには診断ができない疾患の把握にも適しており、詳細な疾患別の検査結果情報をも得ることでより適切な予防対策につなげることも可能となる。

表V-2-1 都道府県別基幹定点数

	2001年			2002年			2003年		
	報告のあった基幹定点数の平均		登録基幹定点数	報告のあった基幹定点数の平均		登録基幹定点数	報告のあった基幹定点数の平均		登録基幹定点数
	月別報告	週別報告		月別報告	週別報告		月別報告	週別報告	
北海道	22.7	23.0	23	22.7	23.0	23	23.0	23.2	23
青森	6.0	6.0	6	6.0	5.7	6	6.0	6.0	6
岩手	20.0	20.0	20	20.0	20.0	20	20.0	20.0	20
宮城	12.0	12.0	12	11.9	11.9	12	11.9	12.0	12
秋田	8.0	7.6	8	7.9	8.0	8	7.3	7.3	8
山形	9.7	9.7	10	10.0	10.0	10	10.0	10.0	10
福島	7.0	7.0	7	7.0	7.0	7	6.8	7.0	7
茨城	9.3	11.0	11	11.0	11.0	12	10.9	10.0	13
栃木	7.0	7.0	7	7.0	7.0	7	7.0	7.0	7
群馬	9.9	9.9	10	10.0	10.0	10	10.0	10.0	10
埼玉	9.0	9.0	9	9.0	9.0	9	8.8	9.0	9
千葉	9.0	13.0	9	8.9	13.0	9	9.0	13.0	9
東京	19.9	24.9	25	21.2	25.0	25	24.9	25.0	25
神奈川	11.0	11.0	12	11.0	11.0	12	11.0	11.9	12
新潟	13.0	13.0	13	12.6	12.3	13	12.7	12.0	13
富山	5.0	5.0	5	5.0	5.0	5	5.0	5.0	5
石川	5.0	5.0	5	5.0	5.0	5	5.0	5.0	5
福井	6.0	5.8	7	6.0	6.0	7	6.8	6.0	7
山梨	10.0	10.0	10	10.0	10.0	10	10.0	10.0	10
長野	11.0	11.1	11	11.0	11.0	11	11.0	11.0	11
岐阜	5.0	4.0	5	5.0	4.0	5	5.0	4.9	5
静岡	10.0	8.0	10	10.0	9.8	10	10.0	10.0	10
愛知	12.6	13.0	13	13.0	13.0	13	13.3	12.8	13
三重	8.5	8.8	9	8.0	9.0	9	9.0	9.0	9
滋賀	7.0	7.0	7	6.0	7.0	7	7.0	7.0	7
京都	6.6	6.0	7	7.0	6.0	7	5.8	5.3	7
大阪	8.6	11.2	15	13.8	15.0	15	14.0	15.0	15
兵庫	13.7	14.0	14	13.9	13.0	14	13.2	12.0	14
奈良	5.9	6.0	6	5.9	6.0	5	5.8	5.9	6
和歌山	10.1	11.0	11	11.0	11.0	11	11.0	11.0	11
鳥取	5.0	5.0	5	5.0	5.0	5	5.0	5.0	5
島根	8.0	8.0	8	8.0	8.0	8	7.8	8.0	8
岡山	4.4	5.0	5	4.2	4.7	5	4.8	5.0	5
広島	18.5	18.3	21	21.0	21.0	21	20.5	14.0	21
山口	7.3	9.0	9	7.6	8.0	10	8.5	8.8	10
徳島	7.0	6.0	7	6.9	6.0	7	7.0	7.0	7
香川	5.0	5.0	5	5.0	5.0	5	5.0	5.0	5
愛媛	6.0	6.0	6	5.9	6.0	6	6.0	6.0	6
高知	8.0	8.0	8	8.0	8.0	8	7.7	8.0	8
福岡	16.8	15.0	15	16.0	15.0	15	16.0	15.0	15
佐賀	6.0	6.0	6	6.0	6.0	6	6.0	6.0	6
長崎	9.8	14.0	12	11.3	12.2	12	10.3	11.3	12
熊本	15.0	15.0	15	15.0	15.0	15	15.0	15.0	15
大分	10.0	10.0	11	10.0	10.7	11	10.0	11.0	11
宮崎	7.0	7.0	7	7.0	7.0	7	7.0	7.0	7
鹿児島	12.0	12.0	12	12.0	12.0	12	12.0	12.0	12
沖縄	7.0	7.0	7	7.0	7.0	7	7.0	7.0	7
	451.0	466.3	476	462.7	471.3	477	466.8	464.4	479

表V-2-2 都道府県別二次医療圏あたり基幹定点数数、基幹定点あたり人口

	2001年(平成13年)			2002年(平成14年)			2003年(平成15年)		
	二次医療圏あたり 基幹定点数	基幹定点あたり人口 (千人/基幹定点)	登録基幹定点数	二次医療圏あたり 基幹定点数	基幹定点あたり人口 (千人/基幹定点)	登録基幹定点数	二次医療圏あたり 基幹定点数	基幹定点あたり人口 (千人/基幹定点)	登録基幹定点数
	北海道	1.1	246.9	23	1.1	246.5	23	1.1	246.0
青森	1.0	245.7	6	1.0	244.8	6	1.0	243.7	6
岩手	2.2	70.7	20	2.2	70.4	20	2.2	70.1	20
宮城	2.4	197.6	12	2.4	197.6	12	2.4	197.8	12
秋田	1.0	148.0	8	1.0	147.0	8	1.0	145.9	8
山形	2.5	124.1	10	2.5	123.5	10	2.5	123.0	10
福島	1.0	303.6	7	1.0	302.9	7	1.0	301.9	7
茨城	1.2	272.0	11	1.3	249.2	12	1.4	230.1	13
栃木	1.4	287.1	7	1.4	287.1	7	1.4	287.3	7
群馬	1.0	203.1	10	1.0	203.2	10	1.0	203.4	10
埼玉	1.0	775.3	9	1.0	777.9	9	1.0	781.0	9
千葉	1.1	663.1	9	1.1	666.0	9	1.1	669.3	9
東京	1.9	485.5	25	1.9	488.8	25	1.9	492.4	25
神奈川	1.1	714.2	12	1.1	718.8	12	1.1	723.9	12
新潟	1.0	190.2	13	1.0	189.6	13	1.0	189.2	13
富山	1.3	224.2	5	1.3	223.8	5	1.3	223.4	5
石川	1.3	236.4	5	1.3	236.0	5	1.3	236.0	5
福井	1.8	118.6	7	1.8	118.3	7	1.8	118.1	7
山梨	1.3	89.0	10	1.3	88.9	10	1.3	88.7	10
長野	1.1	202.1	11	1.1	201.5	11	1.1	201.4	11
岐阜	1.0	422.2	5	1.0	422.2	5	1.0	422.2	5
静岡	1.0	378.1	10	1.0	378.6	10	1.0	379.3	10
愛知	1.2	545.2	13	1.2	547.9	13	1.2	550.6	13
三重	2.3	206.8	9	2.3	206.8	9	2.3	206.9	9
滋賀	1.0	193.3	7	1.0	194.1	7	1.0	195.1	7
京都	1.2	378.0	7	1.2	377.4	7	1.2	377.3	7
大阪	1.9	587.9	15	1.9	587.7	15	1.9	587.7	15
兵庫	1.4	397.9	14	1.4	398.4	14	1.4	398.9	14
奈良	2.0	240.3	6	1.7	287.6	5	2.0	239.3	6
和歌山	1.6	96.9	11	1.6	96.5	11	1.6	96.0	11
鳥取	1.7	122.6	5	1.7	122.4	5	1.7	122.2	5
島根	1.1	95.1	8	1.1	94.6	8	1.1	94.1	8
岡山	1.0	390.6	5	1.0	390.6	5	1.0	390.6	5
広島	3.0	137.1	21	3.0	137.0	21	3.0	137.0	21
山口	1.0	169.3	9	1.1	151.8	10	1.1	151.2	10
徳島	1.2	117.4	7	1.2	117.1	7	1.2	116.7	7
香川	1.0	204.4	5	1.0	204.2	5	1.0	204.0	5
愛媛	1.0	248.5	6	1.0	247.7	6	1.0	247.2	6
高知	2.0	101.6	8	2.0	101.3	8	2.0	100.9	8
福岡	1.2	335.5	15	1.2	336.2	15	1.2	336.7	15
佐賀	1.2	146.0	6	1.2	145.7	6	1.2	145.3	6
長崎	1.3	126.1	12	1.3	125.6	12	1.3	125.1	12
熊本	1.4	124.0	15	1.4	123.9	15	1.4	123.7	15
大分	1.1	111.0	11	1.1	110.8	11	1.1	110.7	11
宮崎	1.0	167.0	7	1.0	166.7	7	1.0	166.3	7
鹿児島	1.0	148.6	12	1.0	148.3	12	1.0	147.9	12
沖縄	1.4	189.9	7	1.4	191.3	7	1.4	192.7	7
	1.3	267.4	476	1.3	267.2	477	1.3	266.4	479

注：各年の2次医療圏数は3月31日現在の数。  
各年の都道府県別人口は10月1日現在の人口。